

## 千種高校周辺の歴史文化財（平成26年7月制作）

この資料は、8月6日（水）に予定されていた「海と山の学校間交流（於：家島高校）」に向けて作成したものです。2年生の生徒による、千種高校周辺の歴史・文化遺産の紹介ということを踏まえた解説としています。

①「千種高校周辺の歴史文化財」、最初のページは町内の歴史的名所の写真を幾つか配置していますが、その間を縫って本校のイメージキャラクター「チッチ、クック、サッサ」が登場しています。平成26年3月に卒業した39回生の生徒たちが、卒業記念作品として考案してくれました。

②まず、千種高校の外観から紹介します。本校は今年で創立66年目。平成30年には創立70周年を迎えますので、本校の建物や石碑、樹木そのものが千種の大事な歴史的文化財となっています。季節ごとの姿をまずはご覧ください。3月末の早春と入学式の頃、桜の季節の千種高校です。

③本校の校訓は「自立 信愛」です。校訓碑は昭和61年3月、第3代校長榎本玉男(かしもとたまお)先生によって書かれ、11回生の方々が卒業記念に建立(こんりゅう)されました。写真は、6月初旬のツツジがきれいに咲き始めた頃です。右は7月の青々とした本校です。右の木はケヤキ、左はアメリカハナミズキです。

④次は、秋と冬の千種高校です。ケヤキの葉も秋には褐色(かっしょく)に色づき、そして冬にはた雪に覆(おお)われ、趣(おもむき)のある凜(りん)とした姿を見せてくれています。この中庭の石碑(せきひ)には、「自主敬愛の道」とあり、校歌の2番から取られています。第4代校長上山勝(うえやままさる)先生が書かれました。私たちは千種高校で学ぶ者として、学校の歴史に恥じぬようによく勉強し、体も鍛えたい

と思います。

⑤それでは、千種町内の主な神社を紹介します。まず初めに、「千草の大森神社」です。左上の写真が学校から見た大森神社の方向ですが、「大森の段」という小高い丘の上にあります。播磨国風土記(はりまのくにふどき)に、「草を敷きて神の座となす。故(ゆえ)に敷草(しきくさ)と言う。」とあるのですが、これが今の千種の語源となっています。その神の座というのがこの大森神社だと言われています。

⑥千草の大森神社の北側にあるのが「河呂の大森神社」なのですが、実はこちらのほうが古く、参道を見てもそれがよくわかります。この神社は、何と言っても兵庫県指定重要文化財の「農村歌舞伎舞台」が残っていて、秋祭りには今でも村の人たちによる芝居が行われていますので、是非見に来てください。今年は10月12日(日)です。見事な廻り舞台もあります。

⑦次に、「岩野邊の二宮神社」です。鳥居の奥に大きなイチョウの木があり、「夫婦(めおと)イチョウ」と呼ばれています。普通は、雌雄(しゆう)別々の木が並んでいるものなのですが、このイチョウは根元が同じで二つに枝分かれし、一方の株だけが結実(けつじつ)するという、他に例を見ない珍しいイチョウです。この神社にも「神楽殿(かぐらでん)」という農村歌舞伎舞台があり、また本殿に架かっている絵馬は、平家物語の那須与一伝説に取材したものなどがあり、実に見ごたえがあります。

⑧次は、町内最南端、下河野(けごの)の八重垣(やえがき)神社です。ここにも農村歌舞伎舞台があり、いつでも中が見られるようになっています。右下の写真でわかるように、廻り舞台の切れ込みがあり、ここが回転して舞台が廻る仕組みになっています。

⑨最後に、町内北部、河内(こうち)の中ノ宮神社です。ご覧のように、昔は参道があり、鳥居の下を通っていたのですが、後で道を作った時に鳥居の三分の一が隠れるようになってしまい、不思議な場所となっています。境内(けいだい)には、大ケヤキと大スギが立っており、古い神社であることがよくわかります。また、大ケヤキの根元には「力石(ちからいし)」が残っていて、力自慢が競い合っていたことが偲(しの)ばれます。

⑩町内には幾つかの「お塚(つか)さん」があります。お塚さんというのは、お墓のことなのですが、まずは大森神社近くの「宇野のお塚さん」です。山崎の長水城主(ちょうずいじょうしゅ)であった宇野政頼(うのまさより)が、天正8年(1580年)5月8日、秀吉軍に攻められて落ち延び、この千種まで来た時に対岸の山の上から吹かれた笛(ね)の音を敵のものと思い込み、もはやこれまで、として家来と共に自刃(じじん)したと言われています。このお墓は、長水城の方向を向いて建てられています。6月17日(火)に授業の中で私たちも訪ねました。

⑪町内商店街の中にお墓がありますが、これが「黒土のお塚さん」です。「教信上人(きょうしんしょうにん)」という偉いお坊様が旅の途中で千種で亡くなられ埋葬(まいそう)されたのですが、今の加古川市野口町から人々がやって来て遺体の取り合いになり、お坊様の首だけを持って帰った、つまり、胴体は千種に残ったという言い伝えがあります。千種では、後に西蓮寺(さいれんじ)というお寺を建て、今でも4月の中頃に「千種念佛(ちくさねんぶつ)」を行い、お祭りをしています。昔は、宍粟は勿論、岡山や鳥取からも数多くの参拝客が訪れて、大変な賑わいであったとのこと。

⑫町内北部の西河内(にしこうち)も、たたら製鉄や木地師(きじし)の伝説の残る古い村ですが、村の入り口に写真のようなお墓が立っています。たたら製鉄に関係の深い佐藤盛唯(さとうもりただ)という人のお墓だと言われていいますが、確かなことは分かっていません。いずれにせよ、様々な伝説が残り、歴史が村人の暮らしと共に今でも息づいているということに、私たちは大きな興味を覚えています。

⑬⑭「道の駅ちくさ」を越えて下河野(けごの)の村に入ると萱葺屋根(かやぶきやね)の御堂が目に入り、何かタイムスリップしたような感覚を覚えるのですが、それが「一里堂(いちりどう)」です。間口も奥行も約4m。中には5体のお地藏様がおられて、単なる旅の休憩所ではない、仏(ほとけ)と人との共同空間であることがわかります。「一里塚(いちりづか)」は有名で、いろんな村によく残っていますが、千種は「一里堂」が残る、正(まさ)にメルヘンの村なのです。

⑮それでは、千種の山々をご紹介します。この写真は七野(ひつの)という村からの眺めですが、それぞれに謂(いわ)れのある面白い山々が並んでいます。4つの主な山はこの後説明しますので、一番右の「城宮(しろみや)」にご注目ください。ちょっとわかりづらいですが、何か鳥かごをカポッとつぶせたような形の山で、その名のとおり、中世には「千草城」がありました。今ではその城跡(しろあと)に「五社神社(ごしゃじんじゃ)」が建っています。

⑩ それでは、私たち千種高校生の精神的支柱である「三室山(みむろやま)」をご覧ください。左の写真は、千種川とその源流である三室山を写したものです。三室は「御室(みむろ)」を意味し、つまり「神のお山」ということなのです。私たちは毎日教室からグラウンドから、この山の凜(りん)とした姿を眺めて勉強に部活に励んでいます。校歌1番の中にも詠(うた)われていて、最も親しみのある山です。

⑪ 次に「日名倉山(ひなくらやま)」ですが、左の写真でもおわかりのとおり、千種側から見ると3層になっています。不思議なことに、高い方から「三の丸、二の丸、一の丸」と呼ばれています。校歌の3番で、「ああ、秀麗(しゅうれい)の三の丸」とありますが、この山のことで、頂上にも小さな祠(ほこら)があり、信仰(しんこう)の対象となっています。

⑫ 「笛石山(ふえいしやま)」の位置ですが、実は毎日千種高校からよく見える山なのです。右上の写真で頂上に近い三角の所に朝日に輝く岩があるのですが、見えますか？これは「猫石(ねこいし)」と呼ばれていて、左下から見ると一匹の猫か熊がいるように見えます。「宇野のお塚さん」のところで、対岸の山から笛の音(ね)が聞こえたとありましたが、この岩の上から吹かれたものでした。故(ゆえ)に、それ以来、この山は「笛石山」と呼ばれています。

⑬ 最後に「後山(うしろやま)」です。兵庫県内では、氷ノ山(ひょうのせん)、三室山に続く第3番目の高峰(こうほう)なのですが、岡山県では「最高峰」ということで、右上の写真にあるような標柱(ひょうちゅう)を日名倉山の上に立てています。私たちにとっては、「道の駅(ちくさ)」を越えて千種の村に入ると、谷あいの真正面に見える堂々とした山、やっとな千種にたどり着いた、と思わせてくれる象徴的な山です。

⑭ それでは次に、「千種を彩(いろど)る花々」について少し紹介します。まずは、長い冬が去った後、3月下旬から4月中旬にかけての喜びの花、喜びの色です。

ミズバショウ ちくさ高原で見られます。

ミツマタ 春先になると千種のいたるところで見られます。紙の原料で、昔はこれを原料に紙すきをしていました。

桜 千種高校のサクラです。

スイセン 千種高校西門の前、千種川沿いに毎年見事な花を咲かせます。

レンギョウ 千種高校の独立記念庭園(昭和50年造営)に咲く春先の見事な黄色い花です。

(21) 次に、4月下旬から5月上旬に咲く花です。

ドウダンツツジ 本校中庭にあるのですが、普通のツツジとは全く違います。旧千種町の町木で、山奥には大木もあります。

シラフジ フジと言えば普通は紫色ですが、本校中庭の藤棚は見事なシラフジです。

アメリカハナミズキ(白・赤) 共に中庭に生えている木ですが、同時に咲くのでめでたい日が続いているような感じになります。

ワスレナグサ これは、東門から入って生徒が毎日登校する道の横で約ひと月間咲き続けているのですが、みんな気づいていましたか。

(22) 5月上旬から下旬にかけて咲く花です。

コバノミツバ 山ツツジの一種で、まだ彩(いろどり)に乏(とぼ)しい山の中でひときわ目立つ花です。

ツツジ 学校庭園のツツジです。他にも数種類の花があります。

ウマノアシガタ これは雑草ですが、黄色のきれいな色が見事です。

クンシラン 千種高校の名物クンシランです。オダマキ 紫、赤、ピンク、白もあります。

ジャケツイバラ 川沿いの崖(がけ)などによく見られ、黄色がよく目立ちます。

(23)5月中旬から7月にかけての花々です。  
クリンソウ この季節は何と言っても千種はこの花です。全国でも有数の群生地(ぐんせいち)があり、毎年多くの方が訪れています。  
ウツギ 山沿(やまぞい)の道端(みちばた)に咲くピンク色の可憐(かれん)な花です。  
アジサイ よく見られますが、これは本校の卒業記念庭園(33回生寄贈)のアジサイです。  
ネムノキ 酷暑(こくしょ)に向かう時期、千種町内のいたる所で見られる優しい花です。  
ユリ 昨年「ちくさ高原ゆり園」が開園しました。ゲレンデに咲くユリをご覧ください。

(24)さて、千種高校周辺の紹介も佳境(かきょう)に入ってきました。いよいよ、鉄の最高級ブランド「千草鉄(ちくさてつ)」についての紹介です。千種町内には、約1500年前から明治初期まで「たたら製鉄」が行われていた場所が何か所かあります。三室鉄山、高羅(こうら)鉄山、荒尾(あらお)鉄山、そして、中でも最もよく整備されているのが、この天児屋(てんごや)鉄山です。朝来(あさご)の竹田城(たけだじょう)をも思わせる石垣群(いしがきぐん)があり、昔ここにいろんな製鉄工場があり、約400人の人が暮らす村があったのです。

(25)「天児屋たたら公園」は今、クリンソウの名所としても知られています。シカに食べられることもなく、また、鉄を多く含む土質(どしつ)が合うのか見事なクリンソウの群生地となっています。その横にあるのが、平成9年に建てられた「たたら里学習館」です。

(26)では、「たたら里学習館」の中を少しだけ覗(のぞ)いてみましょう。まず、左上の写真ですが、ここに昔こんな村(たたら場)があったということがわかる、村の模型(もけい、ジオラマ)があります。また、昔使われていた道具も展示してあり、特に、地下にまで掘り下げたある大型の「ふいご施設」(＝高殿(たたら))の模型があります。最後の写真を見てください。これは、千種中学生が集めた砂鉄で作った鉄(千草鋼[ちくさはがね])を鍛えて製作した太刀と短刀なのです。平成17年3月に完成したもののなのですが、300万円かかったとのこと。

(27)この「たたら製鉄」の様子を江戸時代中期に描いた本があります。千種と関わりの深い、平瀬徹齊(ひらせてっさい)という人が書き、絵は、長谷川光信(はせがわみつのおぶ)という人が描いた『日本山海名物図會(にほんさんかいめいぶつずえ)』という本ですが、その中に「学習館」に展示してある道具や、鉄山での作業の様子、そして、映画「もののけ姫」にも出てきた「たたら場」(ふいご)の様子が描かれています。

(28)それでは、最後に私たちが中学時代に学んだ「たたら製鉄学習」について紹介しておきましょう。

(29)まず、2年生は夏休みに一人1キロの砂鉄を川で集めなくてははいけません。写真のように、大きな磁石が学校から貸し出されて、これを使って川の中で集めました。

(30)次に、9月になって、学校で「鉄穴流し(かんなながし)」という、川で集めた砂鉄を流水で洗ってきれいにする作業をしました。これを何日も天日(てんぴ)で乾かして、10月の「たたら製鉄実習」を待つのです。

(31)(32)そして、いよいよ 10 月の「たたら製鉄実習」です。先程(さきほど)の話にも出た「天児屋たたら公園」の学習館横の広場で毎年行っています。この後の写真は、すべて昨年のもので、私たちが 2 年生の時は、平成 23 年 10 月 18 日(火)に行いました。天気は晴れでした。それでは、順に作業工程(さぎょうこうてい)を見ていきましょう。

(写真下の説明に従って、簡単に話をする)

(33)最後に、私たちが 2 年生の時に取り組んだ実習の成果や概要についてまとめておきます。

- ①実施日 平成 23 年 10 月 18 日(火) 晴れ
- ②場 所 千種町西河内天児屋たたら公園
- ③参加生徒 宍粟市立千種中学校 2 年生 39 名
- ④講 師 宍粟鉄を保存する会 5 名
- ⑤火入れ 午前 8 時 55 分
- ⑥砂鉄投入開始時刻 午前 9 時 14 分
- ⑦使用した砂鉄の量 51.0 kg
- ⑧使用した木炭の量 75.6 kg
- ⑨砂鉄投入採取時刻 午後 2 時 27 分
- ⑩「鋬出し」の時刻 午後 3 時 40 分
- ⑪「鋬の重さ」 約 15.25 kg

(34)さて、今日はこの後家島高校の皆さんに「真浦の獅子舞(まうらのししまい)」を披露していただけるということで、とても楽しみにしています。私たちも、授業で「千種太鼓」の伝承(でんしょう)に取り組んでいます。1 年生の 1 学期と 2 年生の 2 学期に取り組むことになっていますので、9 月からまた練習し、皆さんが冬に千種にお越しになる時には、是非学校に寄っていただいて、私たちの太鼓演奏を楽しんでいただけたらと思っていますので、またご検討ください。この写真は授業での練習風景、そして、

(36)次は文化祭での演奏風景です。1 年前のことで、ちょっと恥ずかしいです。

(36)ご清聴、どうもありがとうございました。雪の降る季節に、また千種でお会いしましょう。

※冒頭にもありますように、千種高校と家島高校は、10 数年前から夏は家島でカヌー体験を、冬はちくさ高原スキー場でスキーをして交流を図ってきました。

この資料、「千種高校周辺の歴史文化財」は、海と山の文化について語り合いたいということで、家島は「真浦の獅子舞」を、千種は「千種太鼓」を披露しつつ(冬の交流時に千種で)互いの地域の様子を紹介するために作成したものです。千種の魅力をすべて伝えることは不可能ですが、ふるさとの歴史や文化について振り返る折りの参考となれば幸いです。